

LIBRARY NEWS

令和5年8月30日 No.5

新座市立第三中学校

校長 石田 和男

(図書室だより) 図書整理員 名本 浩子

立秋が過ぎても きびしい残暑が続きました。ふと晴れた空を見上げると、小さな積雲の群れが広がり、風に乗って流れていきます。積雲は、別名、「わた雲」と呼ばれているように、見るからにモコモコして気持ちよさそう。絵本の挿絵のように、本当に雲に乗って旅をしたり、本を読んでくつろいだりすることができたら楽しいだろうと童心に帰った時間でした。居心地がよければ、読書も進みます。流れゆく雲を眺めながら、そんな心地よい図書室づくりをしていきたいと思いました。

2学期が始まりました。元旦、入学式や始業式。一年のうちに何かの始まりというのは幾度かありますが、始まりを迎えるときは、これからの日々への、ほんの少しの不安や緊張と大きな期待が入り交じった なんとも言えない気持ちになります。時には、泣きたいほど悲しいことや苦しいことがあるかもしれませんが、そうした不安は、やがて、期待した以上の楽しさや喜びにかき消されていくのです。月の満ち欠けのように、それを繰り返しながら、私たちは生きているのだと思います。

落ちこんでいるときに元気づけてくれる本、不安なときに勇気づけてくれる本、迷っているとき、悩んでいるとき、解決の手がかりをくれる本、あなたの心に寄り添ってくれる本がきっとあります。2学期も、本の貸し出しや調べ学習の場だけでなく、みなさんの居場所として、たくさんの来室をお待ちしています。

さて、今宵は月がさらに丸に近づき、明日は満月。そして、次の満月は、今年の“中秋の名月”にあたる9月29日です。“中秋の名月”は満月だというイメージがありますが、“中秋の名月”と満月の日付はずれることがしばしばあり、“中秋の名月”は必ずしも満月ではないそうです。

月の呼び方もさまざまです。おなじみの満月には「十五夜」や「望月」といった別の呼び方がありますし、三日月は「若月」や「眉月」とも言い、半月の「上弦の月」や「下弦の月」は理科の教科書にも載っていると思います。それ以外にも、旧暦14日の「待宵月」、17日「立待月」、18日「居待月」、19日「寝待月」と、月を眺める人の姿勢が変化していくさまを、月の名前にしているのもおもしろいと思いませんか。

中秋の名月をめぐる習慣は、平安時代に中国から伝わったと言われていています。清少納言や兼好法師たちが、月明かりの下、筆を執っている様子を想像すると、月の光に引き寄せられ、いにしえの世界にワープしたような不思議な気持ちになります。

宇宙に飛び立つ技術を得た人類は、初めて有人の月面着陸を成功させ、先日もインドが、無人の月面探査機を月の南極に着陸させることに成功しました。科学の進歩のために、月の実体を明らかにすることは大切なことかもしれませんが、月をめぐる習慣や月にまつわる伝説などはこれからも残り続け、月は、いつまでも不思議な力を持つ神秘的な存在であってほしいと願うのです。

では問題です。今回は「月」に関する小説についてです。「月」に関する話と言って すぐに「竹取物語」を思い浮かべる人は少なくないのではないのでしょうか。現存する日本最古の物語「竹取物語」は、幼いときから、絵本でも親しまれている作品ですが、「竹林からお送りしております。かぐや姫は元気かな。」が決まり文句の、タケトリ・オキナという男性が配信するポッドキャスト（音声配信サービス）の番組内容が、登場人物に影響しながら物語が展開していく小説は次の3つの作品のうちのどれでしょう。

- ① 青山 美智子 著 「月の立つ林で」
- ② 佐藤 正午 著 「月の満ち欠け」
- ③ 森 絵都 著 「みかづき」



6月号の、相沢沙呼の『雨の降る日は学校に行かない』からのクイズで、サエがナツに教えた「一日じゅう、いいことがある“おまじない”」とは、③の「ゆで卵の白身を傷つけないできれいにむくことができた。」でした。

問題の答えの本は、分類番号913、[新着図書の特設コーナー](#)にあります。次の本の紹介もヒントですよ。

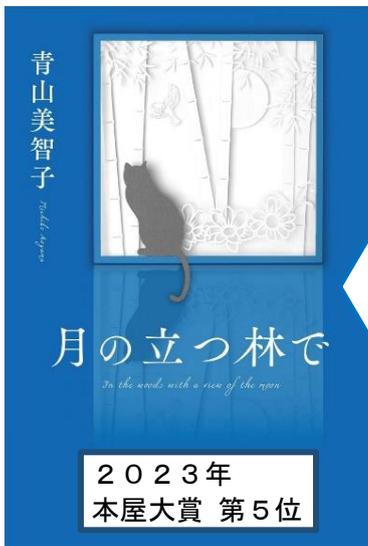
今号は、新着の本も含めて、タイトルに「月」のつく小説、「月」を題材にした小説を紹介します。きれいな月をめながら、「月」にまつわる本を読んでみませんか。満ちては欠け、欠けては満ちる。それを繰り返す月。ここに紹介する本を読んだあと、きっとあなたも、まん丸に満ちた満月だけではなく、いろいろな月、目に見えない新月までもいとおしく感じることでしょ。

第157回直木賞受賞作

『月の立つ林で』 青山美智子/著 (ポプラ社)

新着!

月の満ち欠け 佐藤 正午/著 (岩波書店)



「新月は見えないけれど、絶対にいる。新しいことにトライする絶好の日。」ポッドキャストの“ツキない話”に、登場人物たちは日常を見つめ直したり、できることから一歩を踏み出そうとしたりします。

5つの短編からなりますが、各章の人物のつながりも読みどころの一つです。月にまつわる たくさんの豆知識も楽しめ、月の光のように、やんわりと心温まる作品です。

2023年
本屋大賞 第5位



2022年12月
映画化

あなたは生まれ変わりを信じますか。

夫の気持ちが自分から離れ、自分を見失いかけていたときに会った人、哲彦。この関係を続ければ、たがいに辛くなる。

「わたしは月のように死んで、生まれ変わる。」

月の満ち欠けのように生と死を繰り返して、ついに哲彦のもとにたどり着いた瑠璃。恐ろしいほどに強い、愛する人への未練。この信じがたい奇跡を、家族は、そして、愛する人は受け入れられるのか。

『みかづき』 森 絵都/著



「私、学校教育が太陽だとしたら、塾は月のような存在になると思うんです。」

親子3代にわたって、それぞれの理想の教育を探し求めていく物語。

2017年
本屋大賞 第2位
2019年1月
テレビドラマ化

集英社

『Kの昇天』

梶井基次郎/著 しらこ/絵 (立東舎) [乙女の本棚]シリーズ



Kの溺死について私が語る書簡体(手紙形式)小説。Kの魂は月光をさかのぼっていった。神秘的でミステリー風な短編。

『満月の夜に君を見つける』

新着!

冬野 夜空 著



「君を失いたくない—」幸せになればなるほど死に近づく少女との切ない純愛。

スターツ出版

新着!

映像化された本

『怪物』(宝島社)
佐野 晶/著
監督: 是枝裕和
脚本: 坂元裕二



夢のタッグが描く
圧巻の人間ドラマ
2023年6月
劇場公開

『キングダム運命の炎』『文豪ストレイドッグス STORM BRINGER』
原作・脚本: 原 泰久
脚本: 黒岩 勉
小説: 藤原 健市



原泰久 原作の漫画
の映画ノベライズ
2023年7月
劇場公開



2023年7月~
テレビアニメ第5
シーズン放送開始

9月に上映される
映画のノベライズ

主演 菅田将暉で
テレビドラマ化され
た小説が映画化

『ミステリと言う勿れ』
漫画原作: 田村由美
小説: 豊田美加
(小学館)



9月15日
劇場公開

『赤ずきん 旅の途中で死体と出会う。』
双葉社



青柳碧人の
赤ずきんシリーズ第1弾
9月14日 劇場公開



9月1日
劇場公開